

寺島洋子 横山佐紀

21世紀を迎えて、教育を中心とする美術館の社会的使命は、日本のみならず諸外国においても重要性を増してきている。世界中から移民を受け入れ「多文化主義」を推進するオーストラリアが抱える社会の課題は、美術館における教育活動にどのような影響を及ぼしているのだろうか。

本稿は、2014年と2015年にオーストラリアの東海岸に位置する数都市を中心にを行った美術館における教育活動の調査報告である。実見したプログラム、各館の担当者へのインタビュー、各館のウェブおよび印刷物等から得た情報を踏まえて、下記の二つのテーマについてオーストラリアの美術館教育の現状を考察・報告するものである。

### I. スクール・プログラム 寺島洋子

### II. 障害者向けプログラム(アクセス・プログラム)——二館の事例から 横山佐紀

#### I. スクール・プログラム

##### はじめに

本調査は、平成24～26年度基盤研究B「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」の一環として実施されたもので、2013年にグッゲンハイム美術館をはじめとする米国の5美術館を対象に行った調査テーマを引き継ぐものである<sup>[1]</sup>。今回の調査は、2014年3月にメルボルンのナショナル・ギャラリー・オブ・ヴィクトリア (National Gallery of Victoria, NGV)、ハイデ・ミュージアム・オブ・モダン・アート (Heide Museum of Modern Art) とシドニーのアート・ギャラリー・オブ・ニュー・サウス・ウェールズ (Art Gallery of New South Wales)、ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート、オーストラリア (Museum of Contemporary Art, Australia) の4美術館を対象に行われた<sup>[2]</sup>。調査結果の総括的な報告<sup>[3]</sup>はすでになされているので、ここでは今回の調査対象の中でも特に教科とのリンクを徹底しているNGVのスクール・プログラムに焦点をあてることとする。

NGVは1950年代から、スクール・プログラムの開発・実施のためにヴィクトリア州教育省から教員の出向、また、近年は申請に基づくプロジェクトへ助成金、さらにはカソリック教育局からも教員の出向など、複数の教育機関からの支援を受けている。こうした長期間にわたる教育機関との協力関係によってNGVの教育活動は形づくられてきている。ゆえにNGVのスクール・プログラムは、学校のカリキュラムや教育学との強い相関関係を持っている<sup>[4]</sup>。

そこで、現在、オーストラリアの教育界に大きな変化を起こしている教育

改革をとりあげ、国として取り組んでいる教育政策の内容を踏まえたうえで、NGVのスクール・プログラムについて考察する。

## 1. 教育改革とナショナル・カリキュラム

オーストラリアは連邦国家であり憲法によって、初等中等教育は各州政府の管轄と定められている。そのため、学校教育課程基準や義務教育年限などの学校制度は州ごとに進められてきた。しかし、1970年代、州への補助金を通して連邦政府による初等中等教育への関与が始まる。1980年代に入ると補助金に対する教育成果への関心が高まり、その結果国家としての教育指針が求められるようになったのである<sup>[5]</sup>。1989年の「ホバート宣言」によって初めて全国規模の教育目標が示され、教育政策の統一化が進み始めた。爾来、1999年の「アデレード宣言」、2008年の「メルボルン宣言」と、およそ10年ごとに国家教育目標が提示されてきた。

こうした動向の背景には、国際的な経済競争を勝ち抜くことのできる人材育成のために国家レベルの教育戦略が必要であるとの認識ができてきたことや<sup>[6]</sup>、リテラシー調査や全国学力調査によって明らかとなった州、人種・民族、階層などの間に広がる学力格差の是正を目指すようになったことなどが指摘されている<sup>[7]</sup>。

「メルボルン宣言」は、現在のオーストラリア教育政策の基盤となる指針である。同宣言では、1) 学校の公正と卓越性の推進、2) すべての若者が成功した学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で知識ある市民となる、という大きな2つの目標が提示された。過去の宣言と異なり、今回はそれら理念上の目標を実現するために8つの領域を柱とする「行動計画」が発表されている。それらは、就学前教育から後期中等教育修了までを視野に入れた、1) より強固なパートナーシップの開発、2) 優れた教授法と学校のリーダーシップの支援、3) 早期幼児教育の強化、4) 中学年の成長向上、5) 上級学年の教育と進学支援、6) 国際レベルのカリキュラムの開発と評価、7) 先住民と経済的に恵まれない生徒の教育的成果の向上、8) 責任と情報の透明性の強化、である<sup>[8]</sup>。そして、連邦政府と州政府の合意に基づく具体的な数値目標が「行動計画」の各領域に記され、両政府の責任と役割も明記された。

この「行動計画」を受けて、カリキュラム評価報告機構（ACARA）<sup>[9]</sup>が設立され、全国共通のオーストラリアン・カリキュラムの開発と実施が本格化した。この統一カリキュラムは、宣言に掲げられた2つの目標を実現するための中核となる行動として、教育改革に必須のものとされたのである。また、その効果を測定するために本カリキュラムと提携した全国学力調査も実施されるようになった。

オーストラリアン・カリキュラムは、2013年から段階的に各州で導入が開始されている。各州政府は、現行の州のカリキュラムにオーストラリアン・カリキュラムを組み込み、新たなカリキュラムを作成してウェブサイトに掲載する。教員はそれらを用いて、学校ごとに詳細なカリキュラムを作成して授業を行うのである。このようにして統一カリキュラムが全国に浸透することで州間の学力格差を是正し、全体的な底上げを目指しているのである。

次に、ヴィクトリア州の学校制度を紹介し、その後でオーストラリアン・カリキュラムの特徴とヴィクトリア州での導入について説明する。

ヴィクトリア州の学校制度

本稿で取り上げるNGVが属するヴィクトリア州（以下、VIC 州）の学校制度は表1に示すとおりである。全体で13年間におよぶ就学期間は、就学前教育の準備学級（1年間）、初等教育（6年間）、中等教育（6年間）に区分されている。日本では小中学校の9年間が義務教育となるのに対し、オーストラリアでは通常1～10年生までの10年間が義務教育で、中等教育修了の資格認証を伴う後期中等教育にあたる11・12年生は進学準備課程に位置づけられている。この2年間は、大学や専門学校で専攻する科目の基礎を学び、学校の成績と12年生の後半に実施される州の統一試験の成績によって、希望する大学の可否が決定される。

表1 ヴィクトリア州の学校制度

学年 (日本)	VIC 州	
K (幼稚園)	就学前教育	
P (幼稚園)	(準備学級)	
1 (小1)	小学校 初等教育	義務教育
2 (小2)		
3 (小3)		
4 (小4)		
5 (小5)		
6 (小6)		
7 (中1)	中学校 前期中等教育	
8 (中2)		
9 (中3)		
10 (高1)		
11 (高2)	高等学校 後期中等教育	
12 (高3)		

オーストラリアン・カリキュラム

オーストラリアン・カリキュラム<sup>[10]</sup>は、表2にあるように、「学問分野に基づく学習領域 (discipline-based learning areas)」「汎用的能力 (general capabilities)」「領域横断的な優先事項 (cross-curriculum priorities)」の3つの要素で構成されている。メルボルン宣言で提示された「成功した学習者」「自信に満ちた創造的な個人」「活動的で知識ある市民」を育成するために学校教育全体を通して身につけることが求められているのが「汎用的能力」で、これらは21世紀を生きるうえで必要不可欠な知識、スキル、態度として扱われている。「学習領域」はカリキュラムでとりあげられている教科である。そして、全ての生徒が学習すべきオーストラリアの現代的課題が「領域横断的な優先事項」として設けられている。

オーストラリアン・カリキュラムは、ウェブサイト上でのみ運用されており、これら3つの要素はカリキュラムの中で多面的に扱われているので、いずれの要素からも、学習内容を学年ごとに確認することが可能となっている。「汎用

表2 オーストラリアン・カリキュラムを構成する3つの要素

学問分野に基づく学習領域	汎用的能力	領域横断的な優先事項
カリキュラムの教科	メルボルン宣言で掲げられた目標を実現するうえで必要不可欠と考えられている能力	オーストラリアにおける現代的な課題
F-10カリキュラム ・英語 (English) ・算数・数学 (Mathematics) ・科学 (Science) ・人文・社会科学 (Humanities and Social Sciences : F-6/7 HASS, 7-10 History, 7-10 Geography, 7-10 Civics and Citizenship, 7-10 Economics and Business) ・芸術 (The Arts: Dance, Drama, Media Arts, Music, Visual Arts) ・テクノロジー (Technologies: Design and Technologies, Digital Technologies) ・健康と体育 (Health and Physical Education) ・言語 (Languages: Arabic, Chinese, Framework for Aboriginal Languages and Torres Strait Islander Languages, French, German, Hindi, Indonesian, Italian, Japanese, Korean, Modern Greek, Spanish, Turkish, Vietnamese)	・リテラシー (Literacy) ・ニューメラシー (Numeracy) ・ICT 技能 (Information and Communication Technology (ICT) Capability) ・批判的・創造的思考力 (Critical and Creative Thinking) ・個人的・社会的能力 (Personal and Social Capability) ・倫理的理解 (Ethical Understanding) ・異文化間理解 (Intercultural Understanding)	・アボリジニおよびトレス海峡島嶼民の歴史と文化 (Aboriginal and Torres Strait Islander Histories and Cultures) ・アジアおよびアジアとの関わり (Asia and Australia's Engagement with Asia) ・持続可能性 (Sustainability)
後期中等教育カリキュラム ・英語 (English: English, English as an Additional Language or Dialect, Essential English, Literature) ・数学 (Mathematics: Essential Mathematics, General Mathematics, Mathematical Methods, Specialist Mathematics) ・科学 (Science: Biology, Chemistry, Earth and Environmental Science, Physics) ・人文科学 (Humanities and Social Sciences: Ancient History, Geography, Modern History)		

<http://www.australiancurriculum.edu.au/> (取得日 2016.1.31) を基に作成。

的能力」は、教科の内容説明やカリキュラムの詳細で育成・活用する場所が定められており、該当する場所にそれぞれの能力を表すアイコンが示されている。そこをクリックすると、そのカリキュラムに関連するこれらの能力の解説が表示されるようになっている。

ちなみに、アートは、準備学級 (Foundation) ～ 10 年生までのカリキュラムがすでに完成している。その学習内容は、全学年を通じて「制作 (Making)」と「鑑賞 (Responding)」で構成されている。

オーストラリアン・カリキュラムの導入

VIC 州では、学校がカリキュラムを作成する際に、VIC 州必須学習スタンダード (Victorian Essential Learning Standards, VELs) を使用するよう求めている。オーストラリアン・カリキュラム導入に際し、VELs にオーストラリアン・カリキュラムを組み込んだ AusVELs が用意された。1 ～ 10 年生はこれに基づき教育が行われている。AusVELs は、「教科学習」「身体的・個人的・社会的学習」「教科の枠を超えた学習」という 3 つの学習領域で構成されている (表 3)。オーストラリアン・カリキュラムの「領域横断的な優先事項」は、AusVELs に組み込まれているが、「汎用的能力」については、すでに VELs に組み込まれていた「身体的・個人的・社会的学習」と理念的には代替可能と考えられているため、AusVELs には導入されていない。AusVELs の 1 ～ 3 年生のアートは「創造と制作 (Creating and making)」で構成され、4 年生以上は「創造と制作 (Creating and making)」に、「探究と鑑賞 (Exploring and responding)」が追加され 2 つの領域で構成されるようになる。

表 3 AusVELs を構成する 3 つの学習領域

教科学習	身体的・個人的・社会的学習	教科を超えた学習
・芸術 (The Arts) ・英語 (English AC) ・人文科学 (The Humanities) ・人文科学 - 経済 (The Humanities - Economics) ・人文科学 - 地理 (The Humanities - Geography) ・人文科学 - 歴史 (The Humanities - History AC) ・言語 (Languages) ・数学 (Mathematics AC) ・科学 (Science AC)	・シティズンシップ (Civics and Citizenship) ・健康と体育 (Health and Physical Education) ・対人関係の発達 (Interpersonal Development) ・個人学習 (Personal Learning)	・コミュニケーション (Communication) ・デザイン・創造性・科学技術 (Design, Creativity and Technology) ・ICT (Information and Communications Technology) ・思考法 (Thinking Processes)

<http://ausvels.vcaa.vic.edu.au/> (取得日 2016.1.31.) を基に作成

後期中等教育の 11・12 年生は、ヴィクトリア州高等学校修了証 (Victorian Certificate of Education, VCE) に基づき各学校で作成したカリキュラムに従って授業が行われている。VCE にオーストラリアン・カリキュラムを取り込むかどうかは VIC 州のカリキュラム評価機関の判断に委ねられている。ACARA のウェブサイトには、2016 年 2 月現在、英語、数学、科学、人文科学の 4 教科 15 科目の後期中等教育のオーストラリアン・カリキュラムが掲載されているが、どの科目を VCE に組み込んだかは不明である。アートの統一カリキュラムはまだ開発されておらず、VCE が使用されている。因みに、アートにはアートとスタジオ・アート (以下、SA)、の 2 つの科目が用意されていて、両方とも制作と美術理論・美術史で構成されている。扱う内容は、広範囲にわたる美術全体を扱うアートに対し、SA は制作により重きをおいて、SA では少なくとも 2 つの異なる美術館を訪問することがカリキュラムで義務付けられている。



2016年現在、AusVELSに代わる新たなヴィクトリアン・カリキュラム (Victorian Curriculum, VC) が作成され、AusVELSからVCへの移行が進められている。VCではアートを、オーストラリアン・カリキュラムと同様に全学年を通じて「制作 (Making)」と「鑑賞 (Responding)」で構成するよう変更が施された。本稿で紹介するNGVのスクール・プログラムは、AusVELSをベースに企画されたプログラムだが、カリキュラムの更新によって改訂を予定しているプログラムの情報も紹介しつつ見ていくことにする。

## 2. NGVのスクール・プログラム

1861年に設立したNGVは、オーストラリアで最初の美術館である。メルボルン市内のフェデレーション・スクエアにある、先住民と先住民以外のオーストラリアの近現代美術を展示しているイアンボッター・センターと、世界各国の美術を展示するNGVインターナショナルの2館が、ヤラ川を挟んで対角線上に位置している。古代から現代までおよそ7万点におよぶ世界有数のコレクションを誇っている。

### スクール・プログラムの概要

NGVのスクール・プログラムは、美術作品を通して児童・生徒の学習成果を高めることを目的としており、美術館での教育と学習は、彼らのヴィジュアル・リテラシーや論理的思考力を涵養して人間や社会に関する理解を深めることを旨としている<sup>[11]</sup>。就学前教育から後期中等教育までを対象に、下記にあげたプログラムを実施している。

#### ①コレクション・プログラム

美術、人文科学、英語・文学、自然科学・環境、オーストラリア、言語、宗教といった教科に対応した、美術を通して学際的に学ぶ60種類以上のメニューをウェブサイトにて提示している。表4は、2014年上半期のメニューをもとに筆者がまとめたものである。メニューではプログラムに適した学年が示されている。例えば、芸術 (The Arts) の「コレクション紹介 (Introduction to the collection)」は全学年に対応しているが、「新米美術評論家 (Apprentice art critic)」は5年生～10年生限定とするなどである。

表4はコレクション (常設展示) を活用したメニューだけをまとめたものであるが、企画展でも同様にメニューが提示されている。さらに、個別の要望にもカスタムメイドのメニューで対応している。

作品を「見る」、作品について「話す」活動を基本とする1時間のプログラムが一般的だが、「美術に表現された感情 (Emotions in art)」(表4)のようにワークショップでの創作をセットにする、あるいは展示室での自主的な活動、事前・事後のオンライン授業などを追加することもできる。

#### ②障害者プログラム

あらゆる児童・生徒に適したプログラムを提供することを旨として個別の要望に応じている。(報告Ⅱを参照)

#### ③スタディー・ルーム

後期中等教育以上を対象に、スタディー・ルームで行う少人数制の特別プログラム。テーマは「版画・素描」「ファッションとテキスタイル」「写真」から選択する。

#### ④トップ・アーツ

VIC州でアートかスタジオ・アートを履修している11・12年生の卒業制作から選抜した作品による展覧会。

#### ⑤教員研修プログラム

コレクションや企画展のプログラムに関連して教員対象の研修メニューが提示されている。

#### ⑥アウトリーチとオンライン・プログラム

表4 NGVの常設展を活用したスクール・プログラム (2014年1月-6月版)

教科	プログラム名称	義務教育課程														進学準備課程	
		就学前 (準備学級)		初等教育						前期中等教育				後期中等教育		11	12
		K	P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
The Arts	Introduction to the collection	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Sketching in the Gallery	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Digital artist	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Emotions in art(*1)	○	○	○	○	○	○										
	Every picture tells a story(*1)	○	○	○	○	○	○										
	Composite creature workshop					○	○	○	○								
	Apprentice art critic							○	○	○	○	○	○				
	Writing about art(*2)									○	○	○	○	○	○	○	○
	Visual Communication in context(*1)(*3)															○	○
	VCE Art and VCE Studio Arts															○	○
	VCE Art Units 1-4															○	○
	VCE Studio Art Units 1-4															○	○
	VCAL- pathways opportunities(*4)															○	○
Humanities	Questions about art	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2014 Victorian Primary School Philosothon						○	○	○								
	VCE Philosophy(*5)															○	○
	Australian culture and identity						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Art, politics and society						○	○	○	○	○	○	○				
	Text-Texta workshop						○	○	○	○	○	○	○				
	The Ancient World - AusVELS History									○							
	The Classical World and its Legacy in the NGV collection						○	○	○	○	○	○	○				
	Draw like an Egyptian						○	○	○	○	○	○	○				
	Focus on History - AusVELS and Australian curriculum							○	○	○	○	○	○				
	Focus on History - VCE															○	○
	VCE Sociology(*6)															○	○
English, Language & Literature	Every picture tells a story(*1)	○	○	○	○	○	○										
	Pack your bags, we're going on a journey!		○	○	○	○	○										
	The art of English - Ekphrastic writing					○	○	○	○	○	○	○	○				
	Linking literature and art									○	○	○	○	○	○	○	○
	Haiku					○	○	○	○	○	○	○	○				
	VCE English: Unit 4(*7)															○	
	Australia speaks(ESL)(*8)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Science, Sustainability & Environment	Caring for country	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	What is that? Scientists at work at the NGV		○														
	What is the weather like at the NGV?			○	○												
	VCE Outdoor and Environmental Studies: The changing land															○	○
	VCE Psychology Unit 1: Visual perception(*9)															○	

州政府の助成によって各学校に設置されたビデオ会議用設備を利用した、学校・教員向けオンライン・プログラムや出張プログラム。

⑦教材とオンライン・フォーラム

プログラムの案内をはじめとして、ウェブサイトには美術関係の資料や教員対象のオンラインのフォーラムなどあらゆるリソースが掲載されている。

教育部長のゲーナ・パネビアンコによると、年間およそ 5000 回に及ぶプログラムが実施され、年平均約 10 万人の学校団体と約 1.5 万人の教員がこれらに参加している。

教授法は、参加者の能動的な探究を促す質疑応答によるもので、コレクションや企画展の内容、さらに学校のカリキュラムに精通した 10 名のエドューケー

Indigenous Australia	Introduction to Indigenous art & culture	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Animals in Aboriginal art	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Animals in art workshop	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Crossing cultures	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Art, politics and society	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Text - Texta workshop	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	VCE Sociology	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Indigenous Art and Spirituality	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Caring for country	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Languages & Intercultural Studies	Vive la France	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Hola Spain	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Wunderbar Germany	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Tour Italy	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	English as an Additional Language(*10):	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Australia speaks	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	New arrivals	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Foreign exchange students	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Asia and Australia's engagement with Asia:	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Focus on China	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Focus on Japan	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Explore Asia	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Enticing Asia	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Cross-cultural understandings	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Religion & Spirituality	Zen and the art of brush painting	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Art and the Spirit - Religious Education	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Indigenous Art and Spirituality	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Saints and Other Inspiring Souls	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	An Interfaith look at God	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
General & Interdisciplinary Programs	VCE Texts and Traditions Unit 1-4(*11)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Introduction to the collection	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	The art of thinking	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Pack your bags, we're going on a journey!	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Opposites	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	The art of play	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	International Baccalaureate: Theory of knowledge(*12)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

\*1) 1 時間の workshop とセットにすることもできる  
\*2) 特に VCE Art と Studio Arts を履修している学生対象  
\*3) 特に VCE Visual Communication & Design を履修している学生対象  
\*4) VCAL (Victorian Certificate for Applied Learning) を履修している学生対象  
\*5) VCE Philosophy の Unit2, Area of Study 2 を履修している学生対象  
\*6) VCE Sociology の Unit3 Australian Indigenous culture を履修している学生対象  
\*7) Unit 4 の Area of study 2 の Contexts を履修している学生対象  
\*8) 英語が第二言語である学生対象  
\*9) VCE Psychology の Unit 1 を履修している学生対象  
\*10) ESL と EAL の学生対象  
\*11) VCE Texts and Traditions の Unit1-4 を履修している学生対象  
\*12) 国際バカロレアの Theory of knowledge を履修している学生対象

ターがプログラムを実施している。

#### コレクション・プログラムの見学事例

10年生対象の哲学プログラム。約10分という短時間の見学だったので1時間のプログラムの全体的な構成は確認できなかったが、見学できた部分のみを紹介する。

近代西洋美術の常設展示室で、マーク・ロスコの油彩画《無題 (Red)》(1956年)を前にして、折りたたみ椅子に座った10名の高校生がエドゥケーターと質疑応答形式の鑑賞を行う。

生徒に作品を見せた後、エドゥケーターが第一印象を尋ねると、「単純」「色数が少ない」「自分にも描けそう」などの感想が出る。その後、生徒の一人から絵が逆さまに掛かっていることが指摘され、その理由を尋ねると、画面上方に垂れる絵具の向きが逆さまであると述べる。

次に、エドゥケーターは具象の肖像画のコピーを見せて、その肖像画との違いについて質問すると、数人が「この(ロスコの)絵は、何が描かれているかわからないので、もっとよく見るようになる」「私たちは絵を見ているようで、見ていない」などと発言。先ほど自分にも描けそうと発言した生徒は、よく見ると単純ではないと述べる。また、作品が逆さまなのは既存の芸術観を覆すためにしたのではないかといった指摘もある。

これは「美術作品を通して学ぶ」プログラムの典型的な例である。エドゥケーターの段階を追った問いかけに沿って、生徒たちが作品の印象から徐々にその本質や、芸術とは何かといったことにまで考えを深めていく様子から、このプログラムが哲学的思索の機会となっていることが見て取れる。エドゥケーターは、生徒の意見に耳を傾けることで、生徒の能動的な探究と省察の場を保障し、学習成果を高めることを支援している。

哲学プログラム(表4)のメニューでは、哲学のVCEに即して2種類のテーマ、①美的価値(アートとは何か?、美とは何か?)、②作品解釈(アートは哲学とどのような関係があるか?、アートの検閲をどの程度まで社会は正当化できるのか?)の両方あるいは片方について話し合うことになっている。見学したのは「アートとは何か?」をテーマにしたディスカッションの導入部分だったと思われる。

### 3. 考察

NGVの教育活動と教育改革との関係を考察する前に、プログラムとカリキュラムの関係を確認しておこう。

まず、NGVのコレクション・プログラムは、ウェブサイトに掲載されたメニューの提示方法自体にカリキュラムとの強い関連性が見て取れる。つまり、プログラムを学年ごとに分類するという一般的な提示ではなく、学校の教科・科目で分類している(表4参照)。学校はどの教科でNGVを活用できるかという視点からプログラムを選択できるようになっているのである。

次に、後期中等教育の高校生対象プログラムには、カリキュラムにおける特定の学習領域が指定されているものがあり、学校の授業との関係性

がより明確になっている。例えば、人文科学 (Humanities) の「VCE 社会学 (Sociology)」では、カリキュラムのユニット3のオーストラリア固有の文化 (Australian Indigenous culture) を履修している生徒を対象とすることが明記されている。

これらのメニューは、半期あるいは1年ごとに更新されている。2016年2月現在は、学期の休業期間であるからなのか、ウェブサイトにコレクション・プログラムは掲載されていない。本稿の表4は2014年1月～6月版のメニューで、2015年版のものとは異なっている。例えば、芸術についてみると、2015年版には9つの新しいプログラムが追加され、「合成生き物ワークショップ (Composite creature workshop)」と「VCEアート・VCEスタジオ・アート」は削除されている。こうしたプログラム更新は、企画したものの需要がなかったり、展示替えによって適当な作品がなくなったりなど、さまざまな理由があると思われるが、パネビアンコによればカリキュラムの変更に即して行われることが多いと言う。例えば、AusVELSに代わる新しいヴィクトリアン・カリキュラム (VC) で、学習能力 (learning capabilities) に倫理が追加されると、プログラムでは美術作品の価値、起源・由来、正統な所有者などに焦点を当てたディスカッションが追加されることになる。同様に、「VCE心理学 (VCE Psychology)」の学習領域の「視覚認知」が「触覚および視覚認知」へと変更されると、プログラムでは絵画作品だけでなく参加型の現代美術作品も鑑賞に組み込まれるのである。

以上のことから、冒頭でも述べたように、NGVのプログラムがカリキュラムと強い相関関係にあることは明らかである。すなわち、オーストラリアン・カリキュラム (AC) が組み込まれたAusVELSやVCを通して、通常の教科内容は言うに及ばず、「領域横断的な優先事項」のアボリジニの歴史と文化は歴史プログラムに、持続可能性 (Sustainability) は科学プログラムに反映されており、さらに、すべての教科学習を通して深められるとされる「汎用的能力」を育成する取り組みは、複数のプログラムにおいて確認することができる。例えば、プログラムで使用する電子タブレット、ビデオ番組の制作、オンライン授業は、ITC技能の育成を促すものであり、参加者の能動的な探究を促す質疑応答形式の教授法は批判的・創造的思考力の育成に貢献していると言えるであろう。

また、メルボルン宣言の実現に向けて立てられた「行動計画」にNGVの活動を照らし合わせみると、ほぼすべての項目に対応していることがわかる。特に、「5. 上級学年の教育と進学支援」は、1980年代後半から課題となっている後期中等教育の修了率の低さに対する取り組みで、連邦政府と州政府の合意の中では具体的な数値目標が記載されている<sup>[12]</sup>。VCEプログラムやスタディー・ルームのプログラム、トップ・アーツは、この課題に対する集中的な学習支援で、NGVのスクール・プログラムの特徴のひとつである。

NGVのスクール・プログラムには、オーストラリア政府が、グローバル化、知識基盤社会、情報化、多文化などを特徴とする21世紀の社会で活躍できる人物を育成することのために設定した、国家としての教育指針が確実に反映されていると言えるだろう。



おわりに

翻って日本の美術館における学校との連携プログラムをみると、現行の学習指導要領で、鑑賞の充実と美術館の利用が促されたことにより、多くの美術館で学校を対象としたプログラムが実施されるようになってきたものの、提供しているプログラムの方向性や方法論は漠としており、図画・工作や美術の学習指導要領に確実に依拠しているとも言いがたいのが現状である。すでに、次の学習指導要領の策定が始まっているが、そこにはオーストラリアと共通するグローバル化社会が抱える課題が盛り込まれることが予想される。その意味において、NGVの活動は我々にとって示唆に富むものだと言えよう。

学校との連携においては、一つ腰を落ち着けて学習指導要領が目指すところを確認し、図画・工作や美術の教科に限定せずに広く美術館が貢献できるプログラムを検討する必要があるのではないだろうか。

## Ⅱ. 障害者向けプログラム (アクセス・プログラム) —— 二館の事例から

はじめに

以下は、オーストラリアの美術館における障害者向けプログラム (アクセス・プログラム) 調査の報告である (2015 年度オーストラリア大使館主催カルチュラル・ビジター・プログラムによる派遣研修)。教育担当者へのインタビュー調査を行ったのは、シドニー、メルボルン、キャンベラ、ブリスベンの 4 都市 5 館——シドニー: アート・ギャラリー・オブ・ニュー・サウス・ウェールズ (Art Gallery of New South Wales, AGNSW)、メルボルン: ナショナル・ギャラリー・オブ・ヴィクトリア (National Gallery of Victoria, NGV)、キャンベラ: ナショナル・ポートレート・ギャラリー (National Portrait Gallery)、ナショナル・ギャラリー・オブ・オーストラリア (National Gallery of Australia)、ブリスベン: クイーンズランド・アート・ギャラリー & ギャラリー・オブ・モダン・アート (Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art) ——である。メルボルンでは、美術館のほかに、戦没者追悼施設である戦争慰霊館 (Shrine of Remembrance) の教育プログラム担当者や小児病院であるロイヤル・チルドレンズ・ホスピタル (Royal Children's Hospital) の入院患者を対象とするアート・プログラム担当者、また、劇場のアーツ・センター・メルボルン (Arts Centre Melbourne) の教育プログラム担当者にもインタビューを行うことができた。こうした調査は、2011 年 1 月から 2012 年 4 月までの在外研修期間中、メトロポリタン美術館を中心に行ったアクセス・プログラムの調査に引き続くものである。

国立西洋美術館では、「アクセス・プログラム」として公式にアナウンスしていないまでも、これまでにスクール・ギャラリー・トークの枠組の中で特別支援校の生徒へのギャラリー・トークを行っており、数年にわたって継続的に来館する学校もみられるようになっている。他館に目を向けると、手話通訳付きのギャラリー・トークを行っていたり、視覚障害者に対してはさまざまな素材を使った館内案内図を用意するなど障害をもつ来館者への対応がすでに行われており、各館でノウハウが蓄積されているものと考えられる。したがって、日本の

美術館が決してアクセス・プログラムを実施していないわけではないのだが、しかし、アメリカ、オーストラリアにおけるアクセス・プログラムの現状との相違を考える際に留意すべきは、両国では障害者への差別を禁止する法律——アメリカのADA (the Americans with Disabilities Act, 1990 年)、オーストラリアのDDA (the Disability Discrimination Act, 1992 年) ——が美術館におけるアクセス・プログラム実施の根拠となっており、これがプログラム担当者や館側に十分に認識されていることである<sup>[13]</sup>。オーストラリアの場合は、DDAのもと障害者を対象として出発した「インクルーシヴ教育」が学校において実施されていることがきわめて重要であり、学校でのこの教育施策が美術館の教育プログラムにも深くかかわっているものと考えられる。

オーストラリアの美術館におけるアクセス・プログラムを報告するこのセクションでは、オーストラリアにおける障害者をめぐる法律的背景とインクルーシヴ教育の在り方をまずは整理し、その上で、今回の調査の中でとりわけ具体的なプログラム内容をインタビューすることができたNGVおよびNGAを事例とし、両館におけるアクセス・プログラムの方針や現状、プログラム例を紹介することとしたい。

## 1. オーストラリアにおける障害者対応の法的根拠 (DDA) とインクルーシヴ教育

障害者の権利一般について考えるとき、国際的に重要な契機として言及されるのが、「サラマンカ声明」と通称される「特別なニーズ教育における原則、政策、実践に関するサラマンカ声明ならびに行動の枠組み」(Salamanca Statement on principles, Policy and Practice in Special Needs Education and a Framework for Action, 1994 年)と「障害者権利条約」(Convention on the Rights of Persons with Disabilities, 2006 年)である。前者は障害のある子どもを含めた万人のための学校を提唱するもので、スペインのサラマンカで開催された「特別なニーズ教育に関する世界会議」において採択された。後者は障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的として、障害者の権利の実現のための措置等について定める国際条約である。2006年に国連総会で採択され2008年に発効、日本は2007年に外務大臣が署名、2013年12月に締結のための国会承認を得て2014年2月より効力が発生している。2015年時点で締結国・地域は160である<sup>[14]</sup>。

オーストラリア連邦政府が障害者権利条約を批准したのは2008年のことであるが、これが円滑に進んだのは、16年も先立つ1992年にDDAがすでに採択されていたことが大きく影響しているのは間違いないだろう。DDAとは、オーストラリアに住むあらゆる人を障害を理由とする差別から守る法律であり、その内容や対象は幅広く捉えられている。たとえば、「障害」は、身体的、知的、精神的、感覚的、神経学的障害に加え、学習障害、身体欠損、疾病に起因する身体的問題 (organisms) を指し、「障害をもつ人」とは、今現在こういった問題を抱える人、かつてそうであった人、遺伝的要因などによって将来そうなることが予想される人、そうであると現時点で判断され得る人であり、また、

介助者や通訳者、介助動物を伴っていること、車いすなどの補助具を使用していることで差別的待遇を受けている人も、この法律によって守られるべき対象である。さらに、親族や友人に障害者がいることや介助者であることを理由に差別的待遇を受けている人もここに含まれ、たとえば、障害のある子どものためにしばしば休暇を取ることになるだろうとの理由で雇用者が被雇用者を解雇することは認められず、障害のある人と一緒に食事をしようとしたレストランで入店を断られるといったこともあってはならない。教育に関しては、障害のある人に対して障害のない人と同様の教育の機会を提供しなければならない、障害のある人の入学願書を拒否してはならない、障害を理由により高い費用を要求してはならない、障害を理由に遠足や学校スポーツなどへの参加を拒否したり排除したりしてはならない、障害のある人を侮辱するような言動をしてはならない、などがDDAのガイドラインには記されている<sup>[15]</sup>。アメリカよりも州政府に大きな権限が与えられているとされるオーストラリアにおいて、教育は基本的には州の管轄事項ではあるものの、2005年に連邦政府によって制定された「教育における障害基準 (Disability Standards for Education 2005)」を受けながら、各州の教育に関する法令や教育プログラムは行われている。障害者サービスや雇用に関する施策も基本的に州政府によって担われている<sup>[16]</sup>。

その中で、州政府によって行われているきわめて重要な障害者向けの教育がインクルーシヴ教育である。インクルーシヴ教育とは、ごく簡潔にいうならば、「障害のある生徒を対象とする教育として始まったもので、すべての生徒を『排除』することなく通常の学校に受け入れ、その中で可能な限り一人一人のニーズに合わせた対応を行う教育」<sup>[17]</sup>であるが、そもそもこの「インクルーシヴ」という概念が教育に持ち込まれ広がった背景に、オーストラリアにおける多文化主義の存在をみておく必要がある。

オーストラリアが20世紀初め以来のいわゆる白豪主義を脱し、「文化的多様性 (multiculturalism)」を国是として採択したのは、1970年代半ばのことである。多文化社会における社会的公正 (social justice) の実現を理念に掲げるマルチカルチュラリズムは政治的にも重要な 이슈であり、1990年代から2000年代初頭にかけて、政治哲学や国際関係、教育学などの領域において多文化主義の実践や思想的背景に関する研究が積み重ねられた<sup>[18]</sup>。とりわけ多文化教育は、多文化社会の実現にあたりきわめて重要な役割を担うものであった。というのも、多文化教育は「生徒の文化的・言語的多様性の尊重」を目標とするものであり、このような教育は個々人の文化的背景のいかんにかかわらず誰もが平等な権利を与えられるべきであるとする「社会的公正 (social justice)」を実現するために、文字どおり不可欠であったからである。さらに、1990年代以降は、オーストラリアにおける多文化主義の新たな目標として、「包摂 (inclusiveness)」が位置づけられ、エスニックな文化的背景に限定されず、すべてのオーストラリア人を社会に包摂することが目ざされてきた。ここに、多文化教育とインクルーシヴ教育の接合点を見ることができる。1994年のサラマンカ声明の影響もあり、学校では、社会的公正を実現するためには、障害をもつ子どもももたない子どもも、すべての生徒が適合できるインク

ルーシヴな環境を整備しなければならないという考えが広がっていたのだが、その背景には、障害などの特別なニーズのある児童生徒を通常クラスで統合的に教育することで、障害のある生徒もそうでない生徒も心理的、社会的、認知的達成度が高まるという研究結果が明らかになったことや、グローバル化の影響のもと異質なものを排除しようとする圧力に対抗する必要性が認識されつつあったことなどが指摘されている。

現在、インクルーシヴ教育の対象は広がりを見せ、障害ばかりでなく、文化的・言語的背景、宗教、信条、ジェンダーのほか、学習能力や居住地、逸脱行動などさまざまな理由によって学校から排除されるおそれのある生徒を含めた教育として行われている。それは、社会的公正と包摂を実現するためには、あらゆる多様性に対応する必要があると考えられているからである<sup>[19]</sup>。エスニシティの多様性に対応する多文化教育と接合されることで、現在、インクルーシヴ教育はより包括的な概念（教育施策）へと至っているといっていよう。

## 2. NGVおよびNGAにおけるアクセス・プログラム

このように、あらゆる多様性を認める社会理念が存在すること、これを実現するための法的根拠たるDDAが存在することが、オーストラリアの学校におけるインクルーシヴ教育の基盤となっているわけだが、これらは当然のことながら学校の枠を超えて社会全体に及ぶものであり、美術館における教育普及活動もこうした理念や環境のもとで行われている。今回訪問したNGVの職員キャロライン・ロング (Carolyn Long, Front of House Coordinator) から資料提供を受けたアクセス・プログラムに関するレポートのタイトルが、*Inclusive Museums: A Clemenger Travel Award investigating Accessibility in Museum* であることが端的に示しているように、「インクルーシヴ」は美術館にとっても重要なキーワードである。

もうひとつ、インクルーシヴ教育との関わりからオーストラリアの美術館に特徴的なことは、美術館の教育担当者の多くが教員経験者であるということである。彼らは教員時代に多文化教育やインクルーシヴ教育に接しその現状をよく把握しているはずであり、その経験や理念が美術館でのアクセス・プログラムに影響を及ぼしているものと考えられる。以下、NGVのアクセス・プログラムの方針とNGA (ナショナル・ギャラリー・オブ・オーストラリア) の様子をインクルーシヴの概念との関わりを織り交ぜながら紹介したい。

### 1) NGVのアクション・プラン

クイーンズランド州メルボルンのNGVは、同州最大の美術館であり、2013年度の来館者数は2,031,577人、児童生徒向けプログラムの参加者数は100,272人、行った展覧会数は39本であった。多くの来館者を迎えるNGVは、2012年6月30日付で「NGV: 障害をもつ人のためのアクション・プラン (National Gallery of Victoria: Disability Action Plan 2012-2015)」を発表している。このアクション・プランを統括するプロジェクト・チームが副館長のもと立ち上げられ、関連部署——フロント・オブ・ハウス部 (インフォメーションなど来館者に直接対応する部署)、設備部、学芸部、展覧会運営部、展覧会デザイン部、教育部、

パブリック・プログラム部、人事部、マーケティング部、マルチメディア部——と連携を取りながら障害をもつ来館者への具体的な対応が行われている<sup>[20]</sup>。

本プランを通じてNGVが最終的に目指しているのは、障害のある人々に対し、①アクセスのための幅広い機会を提供すること、②インクルーシブな雇用の機会を提供すること、③職員が障害のある人々のアクセスに関する必要条件をよく理解すること、④モニタリング、報告、評価を通じて館全体で本プランの実施を積極的に進めること、以上の4点である。障害の定義や差別とみなされる状況の説明など全体の基本となる枠組みはDDAに即しており、州レベルの法律としては、ヴィクトリア州が2006年に採択した「障害者法 (the Disability Act 2006)」の第38条——①物やサービス、施設にアクセスする際のバリアを軽減すること、②雇用に関するバリアを低くすること、③コミュニティへのインクルージョンおよび参加を促すこと、④障害のある人に対する差別を生む態度やふるまいを変えること——が基準として適用されている。これらの4項目を満たすためのアクションが項目ごとにさらに細分化して記述され、担当部署、期限、評価基準が明記されている。たとえば、④に関しては、「本アクション・プランが掲げている目標は、NGVの年間業務計画の一部である。担当部署：プロジェクト・チーム、実施状況：年間業務計画として印刷物を制作する、評価：年間業務として評価」といった具合である。

評価は年に4回行われ、それらはNGV年報の中で報告される。たとえば、2013-14年の年報では、展覧会関連のツアーやレクチャー（特別支援学校の子ども、視覚障害のある子ども、知的障害のある子どもなどが対象。作品をさわるタッチ・ツアーも含む）、アーティストによるトーク、ラージ・プリント（文字を拡大した作品解説）の配備やWi-Fi環境など情報環境の整備、認知症をもつ人向けのギャラリー・トーク、介助者への配慮など、多様なプログラムが実施されたことが報告されている<sup>[21]</sup>。

現在、NGVウェブサイトでアクセス・プログラムとして告知されているのは以下（表5）のとおりである<sup>[22]</sup>。

表5 NGVウェブサイトで告知されているアクセス・プログラム

① アクセス・ツアー (All Abilities and Access Tours)	視覚障害者を対象とする、ことばによって作品を記述していくツアーや、手話ツアーなど。障害者のための特別鑑賞日が展覧会によって企画される。また、障害者のための特別観覧やツアーの手配が可能。電話、オンラインでの予約が必要。
② 美術と記憶のツアー (Art & Memory tours)	比較的最近始められた認知症をもつ人を対象とするプログラム。施設に入居している人、デイ・ケア・センターの利用者、自宅に住んでいる人、介助者を対象とする。電話、オンラインでの予約が必要。
③ 多言語ツアー (Language tours)	ボランティア・スタッフによる、英語以外の言語によるツアー。
④ 障害をもつ生徒のための教育プログラム (Education Programs for Students with a Disabilities)	あらゆる生徒を対象とするインクルーシブな学校対象のプログラム。予約する前に、エデュケーターと生徒のニーズを事前に話し合うことが必要。電話、オンラインでの事前問い合わせ・予約が必要。

NGVが館全体として掲げている目標や具体的な対応が、オーストラリア社会の「インクルーシブ」ときわめて密接に結びつき、DDAやヴィクトリア州の基準などの法的根拠に基づきながら計画され、実施されていることが以上からも明らかだろう。

2) NGA (ナショナル・ギャラリー・オブ・オーストラリア) の高齢者対象プログラム

首都キャンベラに位置するNGAは、2013-14年の年報によると、来館者数



809,512 人、学校プログラムへの参加者数 75,015 人、一般向けプログラムの参加者数 25,094 人、企画展は 10 本であり、NGV よりも規模はやや小さいが、オーストラリアを代表する重要な美術館である。

NGA で行われているアクセス・プログラムは、ウェブサイトによると、以下 (表 6) のとおりである。

① アルツハイマーをもつ人向けのプログラム (Arts & Alzheimer's)	認知症をもつ人を対象とするプログラム。ツアーで取り上げる作品についてのディスカッションが知的な刺激を通じて、ソーシャル・インクルージョンを提供する。
② 聴覚障害がある人向けのプログラム	・オーディオ・ループ (※ 補聴器に入ってくる音を大きくするシステム) の提供。 ・手話通訳付きの展覧会関連講演会。
③ 視覚障害がある人向けのプログラム	・彫刻庭園の紹介、庭園の地図、彫刻の説明などをまとめた点字冊子。インフォメーション・デスクにて貸出。 ・所蔵作品についての点字冊子。同じくインフォメーション・デスクにて貸出。 ・視覚障害のある人向けのツアー。可能な作品では触察を行いながら、教育担当職員とボランティアが行う所蔵作品のツアー。要事前予約。

表 6 NGA ウェブサイトで告知されているアクセス・プログラム

なお、NGA でも年報において障害のある人への対応が「社会的包摂 (social inclusion)」という項目を設けて報告されており、オーストラリアに住む障害のある人およびその家族、介護者の生活を改善する連邦政府のフレームワークである「障害を持つ人のための戦略 (National Disability Strategy 2010-2020)」に基づき、障害のある人を対象とするプログラムがパブリック・プログラムの予定に常に含まれるよう計画されていることが明記されている<sup>[23]</sup>。NGA においてもアクセス・プログラムの根拠として連邦政府の施策が適用されていること、NGA におけるこれらのプログラムが「社会的包括」として明確に認識されているわけである。

NGA ではエデュケイターがアクセス・プログラムを担当しており、そのひとつ、認知症をもつ人を対象とするプログラムを、教育担当職員のエイドリアン・ボーグ (Adriane Boag) 氏の説明を受けながら見学することができた。4 月 10 日 (金) 10:30 から見学したのは、申し込みに応じて行われたプライベートなプログラムと、NGA として行うプログラムのふたつであり、おもな特徴は以下のとおりである。

① 実施方法 (申し込み方法)

(i) 施設の来館希望日時に基づくプライベートな申し込み

もしくは、

(ii) NGA の定期的なプログラムとして、毎月第一金曜日に実施するもの

トーク担当者 (トーカー)

(i)、(ii) いずれの場合もエデュケイター (常勤職員ではない) が担当。(i)

の場合は 7 人で 1 グループの参加者に対しエデュケイター 2 名が付き、

(ii) の場合は 4、5 人のグループに対し 1 名が付き 2 グループで行っていた。

いずれのグループでもトークは対話型であり、トーカーは作品の前には立たず、参加者と一緒に座って同じ位置から作品を見ることが多い。

参加者がさわるができるような小道具は使わないが、作品の細部をよく見てもらうために iPad を 2 人ぐらいで使ってもらうことはあるという。

参加者がさわるができるような小道具は使わないが、作品の細部をよく見てもらうために iPad を 2 人ぐらいで使ってもらうことはあるという。

② 時間・作品数

プログラム全体は 1 時間、3 点の作品を観賞する。

### ③作品選択の方法

作品選択はかなり自由で、トーカーの裁量に任されている。死を連想させるものは除外するが、それ以外は現代美術や抽象画、写真から自由に選択してよく、ヌード像が含まれてもまったく問題ない。

アクセス・プログラムを統括するボーグ氏によると、「作品選択にあたっては、高齢者であり認知症をもつ人だからといって具象的な作品や過去の経験が呼び起こされるような具体的な主題の作品（たとえば、洗濯機が普及する前は非常に手間のかかる家事であった洗濯の様子を描いた作品など）が必ずしも適切なわけではない。それはその主題についてひと通り話したらそれ以上広がりがやうがない。むしろ、どんなことを話しても良いさまざまな反応が生まれるオープン・エンドな問いかけができる作品のほうがよい」とのことである。また、「高齢者には縁がないだろう、わからないだろう」と思われることの多い現代美術作品でも参加者の見方はしばしば非常に柔軟で、「現代美術だから」というだけの理由でギャラリー・トークの対象から外す必要はなく、ヌードを外す必要もない。彼らはかつては若くいろいろな経験をし、ビートルズに熱狂したり、デートをしたりした時代があったということを忘れてはならないという。認知症をもつ人たちと作品を一緒に見る際に重要なことは、高齢者だからといって「過去志向」に陥ってはならず、新しいことにチャレンジしていく「未来志向」の学習であることだとのボーグ氏の指摘は、きわめて重要な示唆を含んでいる。

### おわりに

さて、このようにNGV、NGAのアクセス・プログラムの理念をみると、いずれも、アクション・プランや年報といった館の公的文書において「インクルーシヴ」が館のポリシーとして採用されており、かつそれが連邦政府や州政府の法律や基準と深く関わった上で、障害をもつ子ども向けのプログラムや、認知症をもつ人の新たな学習を支援するプログラムが行われていることが理解できよう。ただし、理念の実現に向けた美術館での取り組みは館によって、あるいは州によって多少の差がみられ、ブリスベンで訪問したクイーンズランド・アート・ギャラリー&ギャラリー・オブ・モダン・アート (Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art) の担当者によると、認知症をもつ人への対応は重要だがまだ試行錯誤の段階にあり、定期的なプログラム実施には至っていないとのことである。あるいはNGVにおいても、視覚障害のある人のタッチ・ツアーは、作品への接触が禁止されている一般来館者に配慮し、公式にアナウンスされているわけではない。インクルーシヴの理念と実現は社会的にはきわめて重要だが、それゆえに、逆説的な事態ではあるが、健常者を含むさまざまな来館者に配慮しながら実際のプログラムは行われているようである。

今回訪問したオーストラリアの各館の状況は、ニューヨークの主要美術館のように、ほとんどの館でアクセス・プログラムが定番化し、ウェブサイトでもアナウンスされ、リピーターたちがお互いに連絡を取り合って複数館を回遊しているケース（メトロポリタン美術館、グッゲンハイム美術館、近代美術館など）

と比較すると、プログラムの告知方法や参加者人数、内容の構成などの面において、全体的に小規模の穏やかなサイズで実施されている。今回の調査はきわめて限定された期間と対象であったため単純な比較は控えるべきであるが、たとえば、メトロポリタン美術館のプログラムが、ワークショップ的な部分も含めて1時間半から2時間にわたり、巨大美術館ゆえに展示室の移動も時に長距離となる内容であるのに対し、NGAは1時間で3点、しかも移動が多くならないよう同じフロアから作品選択を行うなどの点が、日本の多くの美術館のようにそれほど大規模なスペースをもたない美術館にはより応用しやすいように思われる。他方、メトロポリタン美術館のプログラムでは「多感覚を使った作品観賞」を重視し、さわること、音を聞くことなど視覚以外の感覚を活用するトークが行われるのに対し、NGAのプログラムは1時間で「見ること、話すこと」に集中する構成であった。

障害者の美術館利用に関する理念がオーストラリアのように社会的に了解されているとはいいい難い日本においては、まずは「アクセス・プログラムはなぜ行われなければならないのか」という基本的な理念を教育担当者間、あるいは館内部で共有することが、きわめて重要であろう。その理念があつてこそ、ではそれを実現するために、プログラムのサイズはどの程度であるべきか、内容はいかに構成され作品はどのように選ばれるべきかといった具体的な場面についての検討を進めることができるからである。今後日本の美術館でアクセス・プログラムの充実化を図るためには、(1)館内でのアクセス・プログラムの目的についての合意、(2)スタッフの充実化(ボランティア・スタッフのトレーニング、職員自身の研修や研究の推進)、(3)外部組織との連携(特別支援校の教員やデイ・ケア、施設などの担当者との連携)が不可欠であると思われる。これらの点については、2020年のパラリンピックなども見据えながら、国立西洋美術館の課題としても今後検討していく必要があるように思う。

[1] 本調査の総括的報告は右記を参照。一條彰子・寺島洋子、『米国の美術館における鑑賞教育——所蔵作品を活かしたスクールプログラムの調査結果に基づく一考察』、日本美術教育研究論集第47号、日本美術教育連合、2014、1-12頁。

[2] 調査メンバーは、一條彰子、大高幸、岡田京子、寺島洋子。

[3] 一條彰子・大高幸・岡田京子・寺島洋子、『オーストラリアの美術館における鑑賞教育——所蔵作品を活かしたスクールプログラムの調査結果に基づく一考察』、日本美術教育研究論集第48号、日本美術教育連合、2015、109-120頁。

[4] NGVの教育部長ゲーナ・パネビアンコの右記講演会から。「ヴィクトリア国立美術館のスクール・プログラム」国立西洋美術館、2014年9月21日。

[5] 伊井義人「第2章教育行政」佐藤博志編著『オーストラリアの教育改革：21世紀型教育立国への挑戦』学文社、2011、29-50頁。

[6] 木村裕「第4章カリキュラム」佐藤博志編著『オーストラリアの教育改革：21世紀型教育立国への挑戦』学文社、2011、79-101頁。

[7] 青木麻衣子「第1章カリキュラム」佐藤博志編著『オーストラリアの教育改革：21世紀型教育立国への挑戦』学文社、2011、7-26頁。

[8] Ministerial Council on Education, Development, Training and Youth Affairs, *Melbourne Declaration on Educational Goals for Young Australians*, 2008.

[9] 連邦政府は初等中等教育に関する事項に直接関与することができないため、カリキュラム開発は連邦政府と各州の教育大臣が任命する者によって構成する新たな組織を設立して行っている。

[10] <http://www.australiancurriculum.edu.au/> (取得日2016.1.31)

[11] <http://www.ngv.vic.gov.au/explore/education/> (取得日2014.3.30) “NGV Schools Collection Programs January-June 2014”.

[12] 伊井、前掲論文。

[13] ADAの本文については以下を参照。<http://www.ada.gov/ADA> また、採択の経緯については以下に詳しい。八代英太・富安芳和編『ADAの衝撃』学苑社、1991年。DDAの本文は以下を参照。<https://www.comlaw.gov.au/Details/C2014C00013> 適用範囲や具体的なケースなどのガイドラインは、以下のウェブサイトが詳しい。<https://www.humanrights.gov.au/our-work/disability-rights/guides/brief-guide-disability-discrimination-act> (いずれのウェブサイトも2016年2月22日閲覧)。

[14] 外務省ホームページによる。[http://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr\\_ha/page22\\_002110.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page22_002110.html) (2016年2月22日閲覧)。

[15] 教育や雇用における具体的な対応には、個別に「合理的調整 reasonable adjustment」がなされなければならない。竹田紘子「オーストラリア障害者差別禁止法 (DDA) における雇用上の『合理的調整 (Reasonable Adjustment) 』と『過度の負担 (Unjustifiable Hardship) 』——雇用上の配慮と制約規定」北星学園大学大学院社会福祉学研究科北星学園大学大学院論集 (10)、2007年3月、1-21頁。

[16] 玉村公二郎・片岡美華「オーストラリアにおける障害者権利条約批准と特別教育の方向」『教育実践開発研究センター研究紀要』第23号、奈良教育大学、2014年3月、131-137頁。

[17] 本柳とみ子「オーストラリアの学校教育における多様性への対応——クイーンズランド州のインクルーシブ教育に着目して——」日本比較教育学会『比較教育学研究』第36号、2008年、71頁。

[18] この時代の多文化主義に関するおもな文献は以下のとおり。西川長夫ほか『多文化主義・多言語主義の現在——カナダ・オーストラリア・そして日本』人文書院、1997年；多文化社会研究会『多文化主義——アメリカ・カナダ・オーストラリア・イギリスの場合』木鐸社、1997年；関根政美『エスニシティの政治社会学——民族紛争の制度化のために』名古屋大学出版会、1994年。

[19] 本柳、前掲論文、66-85頁。

[20] <http://www.ngv.vic.gov.au/about/reports-and-documents/disability-action-plan/> (2016年2月22日閲覧)。部署間の連携は障害者対応にあたってきわめて重要である。フロント・オブ・ハウスのキャロライン・ロング (Carolyn Long) によると、どのような来館者が予定されているのかを事前にインフォメーション・デスクのスタッフなどと共有するようにしているが、看視との情報共有がうまくいかず、あらかじめスイッチを切っておくべきだったマルチメディアを使った作品に光や音が苦手な自閉症児が遭遇してパニックを引き起こしてしまったことが実際に生じたという。

[21] Council of Trustees of the National Gallery of Victoria, Australia, *NGV Annual Report 2013/14*, 2014, p.118. ([http://www.ngv.vic.gov.au/\\_data/assets/pdf\\_file/0004/695038/NGV\\_AR\\_2013\\_14\\_ONLINE.pdf](http://www.ngv.vic.gov.au/_data/assets/pdf_file/0004/695038/NGV_AR_2013_14_ONLINE.pdf) 2016年2月22日閲覧)。なお、本アクション・プランによると、2009年の時点でオーストラリアにおいて障害をもつ人は400万人 (全人口の18.5%) おり、60歳以上の人口の半分以上 (52%) が何かしらの障害を抱えているという。

[22] NGVのウェブサイトによる。<http://www.ngv.vic.gov.au/visit/access/access-services/> (2016年2月22日閲覧)。なお、NGVにおけるアクセス・プログラムの実施にはボランティアが関わっており、認知症をもつ人を対象とするプログラムは、NGVへの来館時のみならず、施設やデイ・ケア・センターを訪問しスライドを見ながら行うアウトリーチ・プログラムとしてもボランティアによって実施されている。このアウトリーチ・プログラムを担当しているイアン・バックingham氏 (Ian Buckingham, Voluntary Guide and Trainee Guides Coordinator, NGV) によると、認知症をもつ人を対象とするギャラリー・トークでは、見て楽しい作品、色が美しい作品を中心に取り上げ、車いすを使っている参加者も多いことから大きめの作品を選び、1グループ最大6名までとする、ユダヤ系の人たちが参加している際は、戦争に関わる作品は取り上げないなどの配慮をしているという。また、トーク中の会話では相手の言っていることを否定しない、同じことを繰り返しても肯定するといった対応を心がけているとのことである。

[23] National Gallery of Australia, *NGA Annual Report 2013-14*, 2014, p.26. ([http://nga.gov.au/AboutUs/Reports/NGA\\_AR\\_13-14.pdf](http://nga.gov.au/AboutUs/Reports/NGA_AR_13-14.pdf) 2016年2月22日閲覧)。

Both in Japan and countries worldwide, there has been an increased awareness of the importance of the education-centric role of art museums in society, since the beginning of the 21st century. This article is a report of our survey of educational activities in art museums, primarily in major cities along Australia's east coast.

Section I is a report on Terashima's study of programs aimed at school groups. Australia, a country that espouses multiculturalism based on its inclusion of migrants from around the world, began to make reforms to its education system in the latter half of the 20th century. In 2008 it announced the Melbourne Declaration on Educational Goals for Young Australians, spelling out its aims for advances in educational goals for the next decade. This announcement clarified two goals, 1) schooling should promote equity and excellence, and 2) ensuring that all young people become successful learners, confident and creative individuals, and active and informed citizens. In order to attain these goals they developed a nationwide Australian Curriculum, endeavoring to ensure the maintenance of a set of standards of educational content and levels. During my visits to Australian museums, including the National Gallery of Victoria (NGV) in Melbourne, I saw how the museums carried out school programs that utilized their collection's artworks, working in tandem with these educational reforms and clearly linked with the Australian Curriculum. While the programs were primarily aimed at those in primary and middle school education, they also included a full awareness of encouraging lifelong learning. The activities of and stance taken by Australian art museums can provide a wealth of suggestions and ideas for consideration as we ponder the educational role of art museums in Japan.

Section II presents Yokoyama's report on her investigation of programs for disabled visitors at art museums in Australia. Many of Australia's art museums conduct access programs in some form or other, and these are based on the Disability Discrimination Act 1992, which forbids discrimination based on disability. The social ideology of "social inclusion" is also extremely important in the formulation of art museum education programs. The inclusive education based on this principle means including within their target audience the students who may be excluded based on cultural or language background, religion, beliefs or other reasons. Given that many of the educators at Australian art museums have school teaching experience, they are able to consider the potential for connecting their experience of inclusive education in schools to art museum access programs. The NGV and National Gallery of Australia in Canberra clearly state the social inclusion concept in their annual reports, and are actively advancing this concept in their action plan formulation and the programs they present. In order to actualize access programs in Japan, we must not only accumulate detailed know-how and experience, it is also essential for us to define and share access program concepts and philosophy.